

アガへ No.39

総主事 堤 弘雄

自分で生きているような錯覚

不登校やひきこもり、社会が示す決められた形にはおさまることのできない子どもたちがたくさんいます。私たちは彼らにどのように生きてほしいのでしょうか？ それを彼らに伝える私たち大人は、どのように生きて何を示せばよいのでしょうか？ 人間はなぜ生きるのか？ 生きることによいような意味を見出せるのか？ 大人が答えを出せない社会では、子どもたちにそれを求めるのは難しいことかもしれません。最近、私はどのように生きるのかという自分への問いを止めました。その代わりに、自分自身が生かされている存在であることをできるだけ意識するようにしました。そうすると、少し心の持ち方が軽くなったような気がします。生きるのではなく、生かされている存在。難しいことではありません。毎日、食べている食事の食材は、鳥もあれば魚もあり、野菜もあります。結局、いろんな「いのち」をいただきながら生かされているのです。食事の前に「いただきます」と言いますが、これは、「いのちをいただきます」という意味があります。私はこれを、「神様に感謝しているのちをいただきます」を短くして「いただきます」と言うと、自分なりに理解しています。生きたくても生きることが許されなかった人々の存在があります。そのような中で「いのち」が与えられている恵み。森で生まれた水や空気によって生かされている自分。母親の苦痛と喜びの中から与えられた小さないのち。自分で生きているような錯覚を持ちながらも、本当は人間は生かされている存在であるのかもしれませんが、まずは大人自身が生かされている恵みに気づくことなくしては、子どもたちの荒れた心を変化させることはできないように思うのです。

2009年度

熊本YMCA常議員

①名前 ②勤務先 ③所属ワイス ④所属教会
(50音順・敬称略)



①岩永 福子
②くまもと温石病院
④熊本白川教会



①入佐 孝三
②菊池養生園診療所
③むさしクラブ



①今村 秀夫
②喜秀苑
④ルーテル室園教会



①金 聖孝
②在日大韓
④熊本教会



①亀浦 正行
②街オフィス尚
③にしクラブ



①加藤 國博
②カトウ食器
③ひがしクラブ



①小川 祐一郎
②熊本県立盲学校
③ジェーンズクラブ
④大津キリスト教会



①歌野 清三
③ひがしクラブ
④カトリック健康教会



①上村 眞智子
②キャリアデザイン工房
OFFICE UEMURA
③ジェーンズクラブ
④カトリック島崎教会



①若本 悟
②街FPパートナー
③にしクラブ



①中村 邦雄
②真和高等学校
③みなみクラブ
④熊本聖三一教会



①依 恭子
②九州ルーテル学院
④ルーテル室園教会



①田上 正
②熊本地域医療
センター
③むさしクラブ
④熊本草葉町教会



①島 優子
②島優子ピアノ教室
④熊本聖三一教会



①椎葉 朋子
④ルーテル大江教会



①佐藤 典子
②佐藤白蟻工業(株)
③ジェーンズクラブ



①後藤 慶次
②ひまわり在宅
クリニック
③みなみクラブ



①村上 美和
②熊本地域医療
センター
③むさしクラブ
④熊本草葉町教会



①棟方 信彦
②熊本県立大学
④熊本草葉町教会



①本堀 秀一
②日本アソシエーツ
④オプニングコッド
③希望ヶ丘教会



①藤本 猪智郎
②肥後大津法律事務所
③阿蘇クラブ



①藤崎 岩男
②熊本県庁
④熊本草葉町教会



①福田 稠
②福田病院
③熊本クラブ
④熊本草葉町教会



①平山 俊生
②平山印刷出版
③ひがしクラブ
④ルーテル神水教会



①堤 弘雄
②熊本YMCA
③熊本クラブ
④熊本草葉町教会



①米村 謙一
②街ワイントンブラ
③むさしクラブ
④熊本ハーベスト
チャーチ



①吉本 貞一郎
②熊本製綿所
③熊本クラブ
④熊本白川教会



①吉本 寛治
②街コムヨシモト
④熊本草葉町教会



①吉岡 光憲
②吉岡税理士事務所
③むさしクラブ



①守田 富男
②NIT西日本九州
③八代クラブ
④シャロンキリスト教会



①森 博之
②熊本市役所
③ジェーンズクラブ

西日本区YMCA
発達障がい支援事業
リーダー研修会開催

5月2日(土)〜3日(日)、発達障がい支援事業に
関わる西日本地区のリーダーとスタッフ27名が阿蘇
YMCAに集まりました。「Gift〜一人ひとり
の賜物を大切に〜」をテーマに、子どもたちとの関わり
方や活動事例を講師の解説で学ぶ研修会、特別ゲ
ストの向谷地生良さん(一面参照)による講演が行わ
れました。また、障がいを持つ人吉市の小栢真吾君に
よるオカリナと、阿蘇市の財津源基君のピアノによ
るミニコンサートも開催。演奏に合わせ、全員で「口
笛ふいて」を合唱するなど、大いに盛り上がりました。
今回の研修会を支援した西日本区メネット事業主
任の田上かつみさんは、「早くから発達障がいの支援
事業に取り組んでいるリーダーを、研修という具体
的な形でサポートできる良い機会でした」と話され
ました。



研修会



ミニコンサート

名古屋YMCAからの研修会に参加した大橋雅典
さん(大学2年生)に感想をうかがいました。

異なるメンバーの中で普段とは違う経験ができる
と思い、参加することを決めました。研修Ⅰでは、普
段の自分の活動と比較しながら話を聞き、子どもた
ちの頭の中では、「考える」「動く」「聞く」が同時進行
しているような状態であることに気づかされました。
研修Ⅱでは、当事者研究の重要性や信頼できる仲
間づくりの必要性を強く感じました。ミニコンサ
ートでは、子どもたちの持つさまざまな能力を強く
感じる事ができました。自分の活動の中で、その子
どもたちの能力を発見できたらいいなと思いました。
2日目の研修Ⅲでは、具体的な事例を見ながら、そ
の子の気持ちになって物事を考え、よい方向に導く
ためのアイデアを出す事ができました。研修に参
加し、今まで知らなかった知識も増え、子どもに対
する接し方を学ぶ事ができました。